

「令和5年度第2回 旭川市包括的支援体制整備検討会」会議録要旨

<概要>

- 1 日 時 令和6年3月21日(木) 18時30分から20時10分まで
- 2 場 所 旭川市総合庁舎7階(旭川市7条通9丁目)大会議室C
- 3 参加者 11名
- 4 事務局
 - 旭川市福祉保険部
 - ・ 福祉保険部次長(福祉保険課長), 福祉保険課主幹(地域福祉係長)
福祉保険課地域福祉係主査, 地域福祉係員
 - 旭川市社会福祉協議会(市社協)地域共生課
 - ・ 地域共生課長(統括支援員), 地域共生課長補佐
地域まるごと支援員(支援員A~D【A~D地域の担当者】)

<会議録>

1 開会

定刻により事務局から開会を宣言。開会にあたり市福祉保険部次長から開会の挨拶を行った。

2 前回の旭川市包括的支援体制整備検討会の振り返りについて

市社協地域共生課長補佐から地区社会福祉協議会におけるふれあいサロンや行事の実施場所についての説明を行った。質疑応答・意見交換の内容については次のとおり。

(A氏) 私は神楽岡地区に住んでいるので、銭湯を会場として使用しているサロンを知っていた。毎週、待合室でサロンを活動しており、楽しい活動だったと思う。神楽岡地区は住宅街であるため、こういったサロンの会場を見つけ出すことが難しい。神楽岡地区は、高齢化が進んでいるため、歩いて行けるような身近な場所にサロンがあれば、行ってみたいと思う人がたくさんいるのではないかと思う。地域の人が通いやすい体制を整えるか検討していただけることも必要だと思う。

(市社協地域共生課長)

私たちも、サロンは身近なところで会場を確保できれば良いと思っており、課題として感じている。

神楽岡地区の最近の傾向としては、少人数で集まることができるスペースで、サロンの回数を増やして実施している。コロナ禍以前は、神楽岡東地区では、個人宅を解放したサロンが先進的に進んでおり、住宅地だからこそ、個人宅を利用し、2~3人が集まり、少なくとも良いので実施していた。

(B氏) 一覧にある遊歩道で開催された永山地区の取組は屋外でどのような活動をされたのか教えてください。

(市社協地域共生課長補佐)

一覧に掲載している「公園」や「遊歩道」などの屋外で実施しているサロンは行事の形で実施しているパターンが多い。地域からは、遊歩道で世代間交流事業を実施したと報告を受けている。ほかには、ウォーキングなどを行っていることを確認している。

3 重層的支援体制整備事業として実施する「地域づくり」に関する事業のうち、生活支援体制整備事業における第2層生活支援コーディネーター（＝地域まるごと支援員）からA～D各地域の取組に係る説明を行った。質疑応答・意見交換の内容については次のとおり。

(A氏) A地域の「東光ほほえみまつり」について、総括に「必要とされる行事を実施・継続していくためにも、運営側の負担感を減らすなど、現代型の「行事のやり方」を東光圈域第2層協議体「東光をよくするための語ろう会」で協議・報告していくとあるが、「現代型の行事のやり方」とはどのようなものをイメージしているのか。

また、昔ながらの地域のお祭りは、地縁組織が主体となることが多いと思われるが、どのように連携したのか。

(支援員A) 現代型の取組については、私が想像している以上にさまざまなやり方があると思うが、地域で開催されるお祭りは、ひとつの団体が、構想から当日のプログラムまでを1から10まで全て行っていたと思うが、今回開催したお祭りは、福祉事業所、社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、さまざまな団体が連携し開催したところが、従来までのやり方と違うところであると思う。

従来までのお祭りの開催スタイルでは、担い手にも負担感があったと思うが、今回は、当日のプログラムについても、地域の子どもダンススタジオに協力してもらったり、キッチンカーをやっているお店や、福祉事業所でポップコーンを販売している事業所があるのだが、そういった事業所に屋台を協力していただいた。

また、福祉事業所から「なかなか、地域にPRしていく機会がない」と相談をいただいた機会があり、お祭りを企画する旨を話したところ、協力いただけることとなりマッチングした。負担感の軽減と事業所との連携など、これからもやり方を模索していく。

(C氏) 今年度は、自立サポートセンターの相談者で、ひきこもりの方に対する社会参加の部分で地域まるごと支援員と連携をさせていただいた。B地域の取組では、自立サポートセンターの相談者たちが、地域で開催されるイベントのお手伝いに参加させていただいた。自立サポートセンターの事業は、生活保護を受けていない人が支援の対象であるが、就労準備支援事業を受託している北海道ケアワーカーズは、生活保護受給者も対象であり、事業

の対象は異なるが、共通して社会から少し距離をおいている方で、社会参加の場を必要としているケースがある。そのため、地域イベントのお手伝いには、自立サポートセンターの相談者だけでなく、就労準備支援事業に関わっている生活保護受給者も活躍できるようになるのかなと思った。

D地域のパソコンサークルは、元々は自立サポートセンターで小規模で開催していたが、地域まるごと支援員と連携し定期的に開催できた。通い場は、相談者のモチベーションにもなるし、良い経験となるため、継続していきたいと思っているが、可能であれば交通費だけでも良いので、有償ボランティアに近いイメージのようなものが得られ、企業や事業所などの協力がいただけたら良い。

ほかの市町村の事例では、ワークシェアの取組や、B型事業所の仕事を有償ボランティアのような形で仕事をもらう取組を実施している地域もあり、協力していただけたら良い。

(支援員D) 相談者は居場所が限定的であり、自由で安心できる場所が本当に少ない状況であると感じる。ひとつでも、ふたつでも良いので、安心できる場所がほしいとゆう部分と、ボランティアではあるが一緒に達成感を味わい、一緒に食事したりする機会は大切であり、きっかけさえあれば、参加できる方が多く存在するのではないかと感じる。協力いただける方であったり、提供していただけるものがあれば歓迎しているため、連絡いただきたい。

(D氏) 私の地域では、新型コロナウイルス感染症の感染症上の位置付けが5類になったが、サロンを再開していない。B地区で実施したふれあいサロンの活動内容や好評だったものについて教えてほしい。

(支援員B) 活動の内容については、集まってお茶を飲みながらお話をするといった、茶話会スタイルがメインとなっている。なにか特別な活動内容を設定している訳ではないが、サロンの参加者から要望があったときには、講和を行うこともある。福祉事業所さんに依頼し、福祉に関する講和をしていただいたり、協議体のメンバーである地域包括支援センターの職員方から講話をしていただいたりしている。

また「ざっくばらんの集い」が出来てから、100回目を迎えたので、100回を記念して、行事を行った。そのときにも講和を行い、消費者協会と警察の職員に特殊詐欺に関する講話をしていただいた。

(E氏) B地域の概要と経過に「高齢者の孤立やつながりの希薄化が心配されていて、協議体で話し合いを進めた結果、集わなくてもできるつながりづくりの検討を行ってきた」とあるが、実績のなかでは「集いの場の再開に際して、地域の福祉事業所等の協力を得られたことに加え、旭川市自立サポートセンターと連携をしてふれあいサロンのチラシを作成していただいたことで、地域（担い手）の負担が軽減され地域活動の推進がスムーズとなった」とある。関連性も含め、このような記載である理由を知りたい。

(支援員B) 地域では、高齢化や担い手不足によりサロンのチラシの作成が難しくなっていた。元々チラシを作成してくれていた人もいなくなってしまうので、どうしようかと思ったところだったが、自立サポートセンターに話したところ、相談者がお手伝いをしてくれる流れとなった。チラシを作成してもらったことで、地域で難しかったところが解消された。

(C氏) 補足であるが、困窮する背景には、地域での孤立が問題となっている。自立サポートセンターでは、生活に困窮した人たちの相談を聞くことがメインであるが、さまざまな相談を受けるなかで、地域から孤立し、情報が得られない状況に陥ったり、制度やサービスを利用し、経済的困窮から一度抜け出し、就労ができるようになっても、地域での孤立が解消されなければ、再び同じ状況に陥り、1、2年後に再度相談に来られる方がたくさんいる。そのため、生活困窮者自立支援には、地域とのつながりをつくる、地域と連携するといった部分が重要となる。

B地域やC地域の取組に参加させていただいている相談者は、社会から孤立し、引きこもりの方であったり、引きこもりとまではいかなくとも、お仕事から離れている方などが、経済的な安定を求めて就労支援を来るが、さまざまな課題があり、就労支援まで行けない方がたくさんある。そういった方を支援する社会資源が旭川には無いように感じている。

社会で就労するステップとして社会に出る経験ができるといったところで、先程、支援員Bから話があったが、地域では担い手が不足している課題があり、お手伝いをさせていただけるようにマッチングした形である。自立サポートセンターでは、相談者からこういったことを機会に、小さな自己有用感を得ることができたのではないかと実感している。

(E氏) B地域の取組のほかにも、D地域のパソコンサークルの目的の文章に「他者と関わる機会が乏しい方の社会参加」「就労活動準備の場として自立サポートセンターと協働開催」「定期的な外出の機会」「他社と関わるきっかけづくり」と目的が4つあることになるが、これら目的のなかには、レベルの高い目的と比較的低い目的が混在しているように思えて、目標の設定時に、どのような考えで作られたのかと思ったのだが、先程のC氏の話聞いて納得できた。

(F氏) C地域の取組説明にあったボランティアを行う方のモチベーション、D地域の取組説明にあった就労に近いボランティアの受け入れ等に関連したお話をさせていただきたい。

日ごろの業務で、ボランティアの部分で連携を取らせていただいております、ボランティアの調整は、「こんな依頼があったので、こんなボランティアがほしい」と、相談させていただく機会が多いが、ボランティアを行いたい方の社会参加という視点で考えた場合、ボランティアの一覧表のようなものを作成し発信していく方法もあると思う。D地域の取組にも関連するが、発信先のひとつとして、旭川市の連携協定を結んでいる企業があり、特に旭川市の連携協定のなかで、包括協定を結んでいる事業所の協定内容を見ると、高齢者の社会参加の推進などの部分で協力できるような企業と思っている。協定を結んでいる

事業所に、先程お話があったボランティア以上就労未満のような受け入れを発信し、繋げていける方法が取れたら良いと思う。

(市福祉保険課主幹)

旭川市で包括連携協定を結んでいる企業もあるが、それ以外の企業でも良いと思っており、例えば、地域まるごと支援員が連携を図っている西地区ロータリークラブが介入しているところにも情報提供をさせていただいたりなど、さまざまな方法があると考えられると思うため、ボランティア以上就労未満の活動を必要としている企業などに対し、PRしていくのは確かに必要である。

(A氏) 少し意見が被るが、C地域のボランティアの担い手の養成についてである。地域まるごと支援員の取組のひとつに、地域まるごと通信を発行し、ボランティアの募集を行っていると思うが、なかなか地域住民の目には入らないと思う。

また、ボランティアの内容についてであるが、地域が高齢化しているなかで、つながりが希薄になっていて、地域交流の機会がなかなか作れない地域も多くなってきていると思う。そういったところに、地域イベントのボランティアであったり、地域を支援するという意味で、ボランティアの視野を広げていくことも必要かなと思う。地域まるごと通信のなかで、地域のお祭りのボランティア募集する方法もある。こういったボランティアを必要としている地域もあるため、視野を広げていただけたらと思う。

(市社協地域共生課長)

ボランティアの募集方法は工夫していきたいと思っている。個別に依頼があるボランティア以外にも、地域で困っているところにマッチングしていくことは、ニーズとしても多いと思うため、情報提供を行うなど、結び付けていくことは意識して行っていけたら良いと思った。

(G氏) B地域の取組について、私自身が住んでいる地域は高齢者は多いが、サロンがあっても歩いて会場まで行くことができなかったり、仲良くしていた人がサロンに行かなくなってしまったので、行かないなど、さまざまな状況が見受けられた。そんななか、B地域では、集いの場だけにこだわらない「ふれあい通信を活用した訪問型のつながりづくり」を行ったとのことであるが、具体的にどのような活動内容だったのか。

また、C地域の取組について、先程の意見と少し重なる部分があるが、私は福祉特別養護老人ホームに勤務しているが、例えば、踊りが得意な人がいれば、行事のときに来ていただいたり、音楽が得意な人がいれば、音楽療法で、週に一回来ていただいたり、生活支援のボランティアがいたら、お年寄りとお話したりして、日常生活の楽しみを増やしていただいたり、ボランティアが必要な場面がある。

福祉業界としても、人材不足とゆうなかで、ボランティアが何かしらの形で関わっていただけたら良いと思うので、依頼できるボランティアの種類が把握できれば依頼しやす

いと感じた。

(支援員B) B地域の訪問型のつながりについては、地域住民の方が、パソコンを活用しミニ通信を作成し、ミニ通信をざくばらんの集い(協議体)のメンバーが担い手となり、高齢者宅を訪問した取組である。

(支援員C) ボランティアを依頼しやすように一覧化や情報発信する部分は、大切であると思いつつも、現場でマッチングをしたとき、一覧化したメニューに応じて、依頼者の住所地に、タイミングが良く支援ができるボランティアがいるかという課題がある。ボランティアの依頼が多い内容は、除雪、草取り、ゴミ捨てであり、ゴミ捨ての場合は、毎日、毎週の支援になってしまい、一度ボランティアを始めると、継続しなければならないといったケースもあり、非常にマッチングに苦慮している。

日常的な個別のボランティア以外では、ボランティア活動団体を社会福祉協議会のHPでも公開しているが、こういった行事のボランティアも少しずつマッチングを増やしていければ良いと思う。

(A氏) 団体単位のボランティアのマッチングもあるかと思うが、先ほど話した地域のイベントとなると、高校生であったり、学生が地域イベントのボランティアなどを積み重ねていくことで、地域に愛着を感じてくれるのではないかと思う。ボランティア団体のほかに、学生などが活躍しても良いと思う。

(H氏) 自分の住んでいる地域も高齢化が進んでおり、若い人が新築で家を建てて入ってくるが、町内会に加入しない。地域のつながりの希薄化が進んでいる。また、地域では何を行うにも高齢者であり、助ける人も助けてもらう側も高齢者である。

旭川市には学校があり、子どもが地域を愛するように、育っていけるようにできれば良いと思っている。PTAの活動としても、地域に困っている人がいることを発信していけるようにしたいと思っている。

(市社協地域共生課長)

以前はボランティアの中心は、60、70代のリタイアした方だったが、この年代の方々が働いているとゆう時代になり、ボランティアが一気に減少している現状にある。私達も若い力を借りたいと思っており、高校生は高校を中心とすると自宅から通っているので、高校から少し離れて暮らしている生徒がいるのだが、中学生は地元であり、除雪は中学生に目をつけ、学校でPRしていただいている。PTA連合会で、ぜひ、活動を紹介していただき、可能であれば私たちがお邪魔させていただいて紹介させていただいたらと思う。ぜひ、連携させていただきたいと思う。

(市福祉保険部次長)

今回、旭川市民生委員児童委員連絡協議会で小学生に作文コンテストを募集し、25校から600を超える作文が応募があった。最優秀賞の内容を紹介したい。小学校5年

生の女の子が書いた作文であるが、一年ぐらい前に、祖父の住んでいる地域に引っ越し
てきて、まわり近所がよくわからなかった。そのような状況のなか、大雪のときに、お
母さんが運転する車が埋まってしまったのだが、通りすがりのドライバーや、隣近所
の人たちが、スコップで雪をかきだしてくれた。そういったきっかけをとおして、近所
の夏祭り、ラジオ体操などが地域の人が開催していることを改めて知ったとのこと。そ
の後、お正月に能登半島の地震が起きて、テレビで様子を見てみると、隣近所の人
が助け合って避難生活を送っていることを目にした。この体験をとおして、地域のつ
ながりが大切なんだと思ったという内容である。

南高校の生徒や、東旭川地区の新聞記事でも、学生が取組の紹介をしたが「普段
応援してもらっているので、除雪で恩返しができたら」と心が育っているんだなと感
じた。こういった取組は、全く暗い未来ではなくて、明るい未来であると感じてい
るところであり、こうした取組が大切なんだなと思っている。PTA連合会にもぜひ御
協力いただければと思っている。

(B氏) 時間になったので、市及び地域まるごと支援員の皆様には、本会議で
いただいた御意見を、地域づくりの取組に活かしてほしいと思う。

4 その他

- 市福祉保険課主幹から、活発な意見交換へのお礼とともに、今回の会議をも
って令和5年度の旭川市包括的支援体制整備検討会は終了となることから、再
度参加者に対して追加の発言の有無について確認を行った。

(I氏) 本日の会議では、ボランティアの話が出ていたと思う。NPOサポ
ートセンターでは子育てサロンや子育てサークルなど、お子さんの見守りな
どのボランティアもいるので、興味があれば声をかけていただきたい。ボラ
ンティア登録もできるし、交通費も出るため、声をかけていただきたい。

(J氏) 本日の会議の話を、所属団体の役員会で情報提供したいと思う。

5 閉会

- 市福祉保険部次長から閉会にあたり挨拶を行った。